きりすとこどもえん　12月園だより

２０２２年度　年主題〈つながって～今、わたしを生きる～〉

0･1･2歳児１２月主題「うれしいね」

月のねがい

◎クリスマスを保育者･友だちと一緒に待ちイエスさまのお誕生を喜ぶ。
◎保育者に見守られながら自分でできることが増える
◎絵本やさんびか、装飾などを通して、クリスマスの雰囲気を味わう。

3･4･5歳児１２月主題　「喜びあふれて」

月のねがい

◎イエスさまが私たちのためにお生まれくださったことを喜び合う。
◎賛美や聖書のみことば、ページェント、祝会などを通して、イエスさまのお誕生の意味を思い、友だちや家族と一緒に喜びを分かち合う。
◎寒さの中でも戸外で体を動かし、友だちや保育者と一緒に遊ぶことを喜ぶ。
◎友だち･保育者･家族と「共に」礼拝する。

今月の聖句　「今日ダビデのまちで、あなたがたのために救い主がお生まれになりました」

ルカ2:11

今年も残り一ヶ月となりました。いよいよクリスマスがやってきます。教会暦では、１１月２７日の日曜日からクリスマスの日１２月２５日までの期間を「待降節」とか「クリスマス・アドベント」と呼ぶ習慣があります。「待降節」とは、私たちの救い主であられるイエス・キリストの降誕を待ち望む期間です。教会では、１２月２５日のクリスマスまでに４つの日曜日を費やして、各週に一本ずつろうそくに火を灯します。１１月２７日には一本目のろうそくに火がつきます。次の週の日曜日には二本、その次には三本、クリスマス直前一週間前の日曜日１２月１８日には四本目を灯します。そのようにしてクリスマスが来るのを心待ちにするのです。

アメリカなどでは、各家庭に本物のクリスマスツリーを飾ります。そして、ツリーの周りに家族へのクリスマスプレゼントを置いていきます。一つや二つではありません。大小の沢山のプレゼントが積まれていきます。子どもたちはそれを見て、心躍らせ、クリスマスの日が来るのをまだかまだかと首を長くして待つのです。大人も子供も待つのは苦手かもしれません。けれども、人類は空想の夢物語の中で待ったのではなく、人間の歴史の中に現に降りてきてくださったイエス・キリストの降誕を待ったのだということ、待ち望むという忍耐が、現実となったというところにクリスマスの意義があります。

今年もそのようなクリスマスが近づいて来ました。どんなに世の中が暗く闇のようであっても、そこに光をもたらす救い主がおられます。辛く悲しい日々の歩みにも、そこに寄り添うイエスさまがおられます。メリー・クリスマス！　　協力牧師　池田基宣

１２月の行事予定

10 日（土）	クリスマス会・弁当日
13 日（火）	12、1 月誕生会（2 才以上）
16 日（金）	もちつき大会
17 日（土）	めぐみ誕生会（12~3 月生）
20 日（火）	終園式（1 号午前保育）
28 日（水）	弁当日
29 ～ 1/3	年末年始の休園日

１月の行事予定

10 日（火）	始園式（1 号午前保育）
14 日（土）	役員会
21 日（土）	熊毛地区研修（職員研修）
24 日（火）	おゆうぎ会予行・弁当日

1 号認定児
入園申込み受付開始
１２月１日（木）
ご紹介を宜しくお願いします！

兄弟にほほえみかけ、助けの手を
差し伸べるたびに、
それがクリスマスなのです。
マザー・テレサ

0歳児の社会

天気の良い日は、毎朝0～5歳児みんなで園庭遊びを楽しんでいます。歩けるようになってきた0歳児のE君とM君は赤いリンリンカートを手押し車にして歩くことを楽しんでいます。直線にしか進めず、行き止まりになることも多々あります。そうなると、保育者を見て「ん”ー！」と知らせてくれます。毎日同じやり取りの中、今日は一緒にやってみよう!!ということで、保育者と一緒に方向転換にチャレンジです。ゆっくりゆっくりカートを動かして、方向転換に成功し再び出発したもののすぐに行き止まりに…。それでも保育者を呼ぶことなく、そこに立っているM君です。どうしたのかな？と様子を見ていると、微妙に体の動きが!!!、数ミリずつですが、カートを動かし自分で方向転換をしようと頑張っていたのです。数分かかってやっと進めるようになり、「すごーい！M君やったね～」の声に、ニコッと笑うM君はとっても嬉しそうでした。また、0歳児の中で月齢が低いMちゃんを月齢の高い0歳児のお友だちが抱っこしようとしたり、あやそうとしたりと同級生なのにお世話をしようとする姿も見られます。0歳児の子ども社会の中でも、自分でやってみようと諦めずにチャレンジする姿に驚かされます。ちょっと先輩顔をしている姿に癒されながら、0歳からの育ちを見守っています。

いよいよクリスマス会の稽古や準備も始まっています。お稽古が始まった頃は、なかなか気分がのらない子どももいました。保育者や友だちの姿を見ながら、聖劇ではご家庭でもセリフの協力をいただきながら、本番に向けて気分を高めているところです。子どもたちや保護者の方々とクリスマスの意味を考え、共にお祝いできたらと思います。だんだん寒くなりますが、残り少ない2学期を元気に過ごせるよう、体調に気をつけながら園でもお家でも過ごしてまいりましょう！

主任　伊豆元

最高の贈り物　クリスマス

深まる冬の到来と共に、様々な出来事を思い返す季節を迎えます。何と言っても、ロシアのウクライナ侵攻は衝撃的なニュースでした。今も多くの人々が命を失う中、国連やNATOも解決の糸口が見いだせない状況が続いています。早いもので、今年もあと一月。キリスト教会の暦で言う待降節『アドベント』に今週入りました。クリスマス会に向けて、礼拝での園長の聖話は、クリスマスにちなんだお話です。ここ三年ほどは、この欄でそれを皆さんに紹介しています。今年は、ご存じO・ヘンリーの、「賢者の贈り物」にします。

ニューヨークに貧しい夫婦がおりました。明日はとうとうクリスマス。妻のデラはつぶやきます。「たった1ドル87セント」これは彼女が毎日必死にためたお金の全部。これじゃ夫のジムに、素敵なものを買ってあげたくてもどうしようもない。でも彼女には宝物が一つだけありました。それは誰もが羨む長くて美しいとび色の髪。「そうだわ、これを売ろう。」髪は、２０ドルになりました。これで21ドル87セントになりました。

一方、ジムにも大切にしている宝物の金時計がありました。でも革紐がぼろぼろになっています。「あの金時計に合う上品な鎖がいいわ。」デラは全ての店を見て回り、とうとうプラチナの鎖を買い求めました。帰ってきた夫のジムはデラの髪を見て、何ともいえない表情を浮かべてじっとデラを見つめていました。「あなた、そんなふうに私を見ないで。髪の毛を切って売ってしまったの。私の髪は伸びるのがとっても早いのよ！」ようやくクロを開くことができたジムはこう言います。「さあ、その包みを開けてごらん。どうして僕がさっきぼんやりしてしまったか、そのわけが分かるから。」渡された包みの紐を解き、やがて泣き出すデラ。そこには、かつて彼女が憧れていた髪の横と後ろにさすべっこうのくしのセットでした。無くなってしまったあの髪にとてもよく似合う色の･･･。ひと泣きして気を取り直したデラは言います。「私の髪ってすぐ伸びるのよ、それより私あなたの時計の鎖を買ったの。時計を貸してみて。このくさり、時計に付けたらどんなに素敵か見てみたいわ。」ジムは、両手を頭の後ろに組んで、ほほえみながら言いました。「プレゼントは片付けようよ。お互い、今すぐ使うにはもったいなさすぎるよ。実は、くしを買うお金を作るために時計を売っちゃったんだよ。さあ、肉に火をかけたら？」

作者は最後にこう言います。「聖書に出てくる三人の東方の博士（賢者）たちは、馬小屋で生まれた救い主に贈り物を献げました。最初のクリスマスプレゼントです。この物語は最も大切な宝物を最も賢明でない方法で、互いのために犠牲にした愚かな二人のお話です。贈り物をする人々の中で、この二人こそ最も賢明な人、現代の当方の賢者なのです。」

クリスマスから始まったキリストに関する一連の出来ごとは、天からの有難い「ギフト」そのものです。クリスマスを通して、イエスの降誕の真の意味を共に学び、この世に生かされている驚きと喜びを分かち合い過ごしていきたいと思います。これから寒さも深まり、コロナと共にインフルエンザの感染にも注意が必要です。健康に留意され、穏やかな年末年始をお過ごしになられますようお祈りいたします。

学園長

クリスマスを迎えるにあたって

クリスマスはイエス･キリストの誕生を祝う日です。約２千年前、ベツレヘムの小さな馬小屋でイエス・キリストは生まれました。イエスを通して、神様からのメッセージを私たち人間に示されました。それは、戦争や餓え、不当な搾取や抑圧に苦しんでいる人たち、自分自身の中で葛藤し悩んでいる人たちの希望の光となるためです。

私たち保育者は、キリスト教保育を目指す園として、いかなる人も希望の光を持ってこの世の中で生きていってほしいと願い、祈ります。それは見えるものではありませんが、見えないものにこそ大事なことがあることを信じて保育をし、子どもたちにもそのクリスマスのメッセージを伝えていきたいです。

☆ひとりひとり神様に命を頂いて生きていること
☆ひとりひとり大切な働きが与えられていること
☆いい事も悪い事も選択できる自由が与えられていること

その自由の中、自分で考え、自分で選択し、自分で実行する時に、自己実現がなされます。その一人一人の選択した行いが神様に喜ばれる時、心も体も喜びに満たされ、希望の光として受け入れられるのです。たとえそれがほんの小さな行いだったとしてもです。

サンタクロースについて

サンタクロースの原型になったのは、４世紀初め頃のキリスト教聖職者、聖ニコラウスだと言われています。伝説によれば、ニコラウスはその相続財産を貧しく困っている人たちに分け与え、誘拐された子どもたちを助けたのだそうです。

クリスマスの絵本に”おばあさんのスープ”という絵本があります。（女子パウロ会出版）

一人暮らしのおばあさんが、雪の降るクリスマスの晩に、小さなお鍋でスープを作りました。食べようとしていた時、森からその匂いを嗅ぎつけてウサギやくま、きつね等次々に訪ねてきます。気のいいおばあさんは小さな皿にスープを分け、皆で食べたというお話です。皆で食べたほんの少しのスープはとても美味しく、寒さで凍えた体と心をほんのり温かくしてくれました。

クリスマスは神様が私たちに贈って下さったメッセージを思い出させてくれます。　それは、みんな神様に愛されているのだということ。その喜びをみんなと分かち合うとき、小さな喜びはもっと大きくなります。そしてもっと幸せになります。今年も子どもたちや保護者の方々と、クリスマスの意味を考えお祝いしていきましょう。　　園長